



# 佑 啓

発行 社会福祉法人 佑啓会  
 ふる里学舎 ☎ 0436-36-7611  
 千葉県市原市今富1、110-1  
 発行責任者 里 見 吉 英

## 佑啓のこころ

—— 刊行にあたり ——

古 川 弘

東方の大国では、身を護るための拳銃を所持することが認められている。一方、百年以前に、腰にさしていた刀剣が廃止されている日本。海を隔てているだけで、この社会ルールの違いは、社会事情か、国是か或いは民族の違いか、すこし心寒くなる。先日、の正当防衛殺人の無罪判決は、私なりにショックを感じたニュースである。

このふたつの社会にも、知的障害をもつ人達が生活している。そして福祉もある。知識人の間では、その国の福祉は、進歩的理論を裏付けに先駆的実践があると評価されている。その国を訪れる機会がなかった私には、参考文献にたよる以外なく、しかも翻訳という第三者に頼っている。当然、是々非々問題というより、部分的私論の補完に役立てるにすぎない。かつて、収容施設といわれた、その国の施設では、一〇〇人余の定員を抱えていた時代を超えて、グループホームなど、急激な進展をみたような大きな福祉の流れであった。かたや、小市民的、職人妻的愛情論で出発したかつての日本の福祉は、外資導入的理論構築をふまえて、やはりグループホームなど、地域が多機能な体系がひろがりつつある。このふたつの流れの違いを追

社の本質をどう受けとめるかに問題の鍵がある。

この本質論にあやかっ、本法人の名称の「佑啓」についてふれておきたい。「佑啓」とは、中国から伝わった言葉である。横文字ばかりが、外来語とは限らず、むしろ文化的に同化された日本語と申したい。この言葉は、孟子の書にあったとか。語意は「たすけて、開き導く」とある。索引は、文学博士諸橋徹次著「大漢和辞典」全五巻一部「人部」のなかよりのものである。この語意が、ふと福祉の心を示唆しているように思えて、採りいれることとした。

閑話休題、視点をかえて、福祉も教育もすこし過言にわたるが、その歴史のなかでは、縦割り意識に落ちり易い傾向があるとみる。現場では、「指導教育をしてあげる、援助してやる、挨拶させる、作業させる。」気持ちとしては愛情ある行為だが、対象者にとっては「させられる……」のである。もっと気楽な姿勢で、お互いにたすけあい、育ちあい、共に生活しようことから、享受していくことが、人間らしいことと思う。その意味で「佑啓」に、現代的解釈を一度加味したいと思っている。

したい。「この世の中には、男と女がいる。普通の子供がいて、障害を持つ子供がいる。なにもおかしいことじゃないのね。だから、そばに障害者がいれば手をさしのべるだけ、お互いに助け合うだけよ。あたしも障害をもつ子供をもっているからと、ひけめに思うことはないのね、いまあたしは気がついたの……この子が生きていくことを、どなたもじゃますることはできないの……」と。

「ふる里学舎」は、障害をもつ人達が、社会に生きていくため、その自立を祈り、社会生活スタートの場、さらなる育ちあう家でありたい。(佑啓会・理事長)

## 支えられて

里 見 吉 英

オープンして、早2ヶ月が経過いたしました。ここまで道のりを考えますと、ただただいろいろとありましたと言うほかありませんが、落成式を済ませ寮生と生活し始めますと、自分の仕事はこれだったのだとほっとさせられます。

古川理事長と知的障害者の生活施設が足りないことを憂い、施設建設に向けて歩き初めて、七年の月日が過ぎようとしております。三歩進んで、二歩下がるというよりは、二歩進んで三歩下がるかのよう日々。

以前施設建設をした諸先輩の話は、本当に厳しいものでしたが、あまり深刻に受けとめず、走り出してはじめて、次元の違う困難さを痛感しました。

十年以上も福祉現場に携わって福祉、福祉と叫んでいた未熟さが一に吹き出した感じでした。当初の事務局は、私と三股係長、長良係長の3名。皆、袖ヶ浦福祉センターでお世話になりながら、余暇はすべてこの仕事に注ぎ込む毎日でした。ここで後に下がったなら、今までの自分が無くなってしまふ、そんな不安があったからこそこまめに溜めつけられたように思います。支えて下さった関係者の皆様、そして応援して下さいました袖ヶ浦福祉センターの皆様には、何度頭を下げて追いつかないほど、力になっていただきました。

オープンしたばかりというのに寮生達は、この気持ちを察してくれたかのように、落ちついて生活しております。

今後は、家族の方々、地域の方々に支えられながら、寮生がここで生活してよかったと思えるような学舎にしたいと考えております。あるご父兄の方が、「これから、子供達はここで生活するのだから、職員とも親戚づきあいをしましょう。」と声をかけて下さったように、気軽に何でも話せる、また困った時はお互い助け合える関係でありたいと願っております。

寮生の生きがい、職員の生きがい、そして家族の生きがい、常に追い求めながら、焦らず歩んで行こうと思っております。私も含め、若輩の集団ですので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

この通信紙「佑啓」が、それぞれの立場の方たちの交流の一助となることを祈って第1号のご挨拶にかえさせていただきます。

(ふる里学舎・施設長)

